

## 1. 評価結果概要表

作成日

平成 21 年 4 月 21 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4079400372		
法人名	有限会社 田川徳星園		
事業所名	グループホーム 徳星園		
所在地	福岡県田川郡福智町神崎706-2 〒 822-1202 (電話) 0947-22-0030		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年4月16日	評定確定日	平成21年5月27日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 4 月 1 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 5 人	非常勤 14 人 常勤換算 9.9 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての～ 1～2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有( 90,000 円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有( 円)	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,167 円程度	

## (4) 利用者の概要(4月1日現在)

登録人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護 1	8 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	0 名				
要支援 1	名	要支援 2	名		
年齢	平均 81 歳	最低 44 歳	最高	96 歳	

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	こがねまるクリニック / 福智歯科
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周囲の緑豊かな自然からは四季の移り変わりを堪能でき、ホーム内はゆっくりと静かな時間が流れている。職員は利用者の表情や仕草、何気なく発した言葉や会話から、利用者の思いや心の声を感じ取り、その時々々の希望や状況に応じてより具体的な介護計画を作成している。利用者の希望に応じたきめ細かい支援は、利用者をより深く知る良い機会と捉えるなど、様々な場面において常に質の向上に対して前向きな姿勢で真摯に取り組んでいる。また、利用者に対する言葉かけや支援の方法等について介護計画に反映させて対応の統一を図ったり、家族に対して利用者の希望を伝え、希望の実現に向けた利用者や家族との関係性の維持に対し継続的な支援を行うなど、利用者主体の、利用者の心に寄り添うケアの実践が行われているホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の外部評価結果について、運営推進会議で報告を行い、カンファレンスにて協議を行うなど、質の向上にむけた取組みがある。この過程において、利用者・家族の希望や心によりそった個別ケアの充実への取組みなどがみられる。
	<b>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</b> 専門性の問われる内容については各担当職員が、その他の内容については全職員がかかわっての取組みがある。利用者により深く共感するため、自己研鑽の必要性に気づくなど、有意義なものとなっている。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 行政職員、地域住民代表、見識者、利用者、利用者家族等の参加による2ヵ月毎の開催がある。会議では、ホームの活動や利用者の状況報告、外部評価結果の報告や対応が難しい認知症高齢者に対してのかかわり方の提案を行うなど、活発な意見交換の場となっている。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 家族面会時の声かけやその都度の電話連絡等による状況説明が行われている。説明時の家族の表情や言葉から、家族の要望等を引き出すように努めている。表出された要望等は、カンファレンスにて協議し、介護計画書に反映させるなどの取組みがある。利用者毎に、年4回、フォトレターとして担当職員からの手紙を添えた写真の送付を通じて、暮らしぶりを知らせるなどの取組みも見られる。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> スーパー、ドラッグストア、電気店等、地元の商店への買物や地元業者からの仕入れ、法人全体として地域行事への参加や美術館への見学を行うなど、地域との関係性を意識した取組みがある。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	「人間を大事にする」「利用者を大切にす る」という大きな幹の基、ホーム理念の作成が ある。利用者・家族にとって心配がない生活を 心がけており、利用者一人ひとりにあわせた個 別ケアの中に、地域との関係性や理念を意識し た取組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	事務所及び各ユニットのリビングに、ホーム 理念と職員心構えを掲示するなど、目に付く工 夫がある。また、朝礼時に理念についての話を 行ったり、理念に基づいた介護計画書を作成す るなど、常に理念を意識する働きかけがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	スーパー、ドラッグストア、電気店等、地元 の商店への買物や地元業者からの仕入れ、法人 全体として地域行事への参加や美術館への見学 を行うなど、地域との関係性を意識した取組み がある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	今回の受審にあたり、専門性の問われる内容 については各担当職員が、その他の内容につい ては全職員がかかわっての取組みがある。利用 者により深く共感するため、自己研鑽の必要性 に気づくなど、有意義なものとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者を招いての2ヵ月毎の開催がある。会議では、ホームの活動や利用者の状況報告、外部評価結果の報告や対応が難しい認知症高齢者に対してのかかわり方の提案を行うなど、活発な意見交換の場となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への行政職員の参加がみられる。また、生活保護課担当者の毎月の来訪や、様々な事例等の疑問点について直接行政窓口へ赴くなど、積極的なかかわりがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事務所内の目につく所にパンフレットを置き、すぐ手にとって見ることが出来るなどの働きかけがある。職員に対してはパンフレットを回覧しての指導、家族に対しては、見学・契約時・面会時等に説明を行うなどの取り組みがある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけやその都度の電話連絡等による状況説明が行われている。利用者毎に、年4回、フォトレターとして担当職員からの手紙を添えた写真の送付を通じて、暮らしぶりを知らせるなどの取り組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の声かけや説明時に、家族の表情や言葉から家族の要望を表出するような働きかけがある。表出された要望は、カンファレンスにて協議し、介護計画書に反映させるなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職等の際は、利用者の状況に応じて一人ひとりに説明がある。引継ぎ期間を十分に設けての対応、勤務形態を考慮し継続的に勤務できるような配慮、再雇用など、利用者や職員との馴染みの関係性を重視した対応がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集について、何らの制限は設けていない。本人のやる気、一生懸命さ、謙虚さ等を重視しての採用である。職員の要望や家庭事情等に沿って、勤務体制や勤務時間を変更したり、再雇用を行うなど、家庭と仕事の両立、プライベート時間の充実が図られている。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	住職をお呼びしての定期的な講話の開催やその都度の理事長からの訓示など、人権について幅広く学ぶ機会がある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人及びホーム内での勉強会の実施がある。外部研修に関しては、研修の情報を提示して希望者を募ったり、内容によって振分けるなどの取組みがあるも、任意参加であるため、限られた職員のための外部研修参加となっている。		グループホーム連絡協議会が中心となり、他の事業所との合同勉強会等を継続的・計画的に実践され、より多くの職員の外部研修への参加を図り、質の向上に向けた取組みを期待します。
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	福智町グループホーム連絡協議会が発足して1年である。連絡協議会を通じて管理者レベルでの交流の機会はあるが、職員レベルでの交流や情報交換等はこれからである。		他の事業所との相互交流や勉強会などについて、グループホーム連絡協議会として計画立て継続的に実践され、職員個々の気づきやモチベーションをあげる機会となるような取組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	系列法人施設からの入居や系列法人内で行われるクラブ活動へホーム利用者の参加があり、入居前から顔見知りの関係が構築されている。また、随時の見学の見学を受け入れ及び体験入居からの利用開始など、馴染みの関係をつくっていく取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に寄り添い、利用者との会話を通じて、話の中に隠れている利用者の思いや心の声を感じ取ることに努め、常に学ぼうとする姿勢が伺える。職員と利用者から、お互いにねぎらいの言葉が寄せられるなど、互いを支えあう関係である。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者の言葉や表情などから利用者一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。把握した生活歴や思い、希望などは、フェースシート、介護日誌、利用者用連絡ノートに記し、介護計画書へ反映させる等の取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のかかわりを通して、利用者の思いや希望の把握に努め、家族の面会時の声かけや担当者会議の連絡等を通じて家族の意向の把握に努めている。担当職員、計画作成担当者、本人、家族等による担当者会議を開催し、利用者に応じたより具体的な介護計画の作成がある。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	利用者用連絡ノートと介護日誌を利用して、 毎朝のカンファレンス時に、本人の状況や様 子、支援の方針等について情報交換と確認が行 われている。職員は利用者に寄り添い、利用者 の状況に応じて、より具体的な内容の介護計画 へ見直すなどの取組みがある。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	病院受診にかかる支援、利用者の馴染みの理 美容院の利用支援、馴染みの場所への訪問支 援、利用者の希望を尊重して遠方に住む家族と の連携への取組みなど、利用者の希望に応じた 柔軟な対応がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホーム協力医による1週間に1度の往診、夜 間・早朝の緊急時に指示を仰ぐなどの連絡体制 がある。利用者の今までのかかりつけ医や専門 病院への受診はホーム職員による対応であり、 受診後は、家族へ報告を行うなどの支援があ る。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしてターミナルケアを行うか否か については、検討中である。日々のかかわりを通 じて利用者本人の意向の確認を行い、契約時に 家族の意向の確認が行われている。状況に応じ て、主治医・家族等による話し合いを行い、そ の都度の意向に沿った支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	表情や仕草、何気なく発した言葉や利用者との 会話から、利用者の思いや心を感じ取っ てケアを行うなど、常に、利用者に寄り添い、 利用者の誇りを大切にされたケアが見受けられ た。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	事業所としての基本的な流れはあるものの、 食事のペース、ホーム内での過ごし方、散歩や 買物等への対応など、利用者の希望やペースを 尊重した支援が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	利用者の希望を取り入れながらのメニューの 作成である。料理の下ごしらえ、下膳やお盆拭 きなど、利用者に来る事を把握し、介護計画 に取り入れての支援がある。職員と利用者が同 じテーブルを囲み、和やかな食事風景であっ た。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしま わずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	13時からの入浴実施である。入浴順番が公平 になるようにローテーションを組んだり、入浴 拒否の傾向が見られる利用者に対して、声か け・誘導などのかかわり方を統一することによ り、利用者が安心して入浴できるような対応が ある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	生活リハビリとして、食事の下ごしらえ、お 盆拭き、テーブル拭き、モップかけ、洗濯物干 し・たたみなど、利用者の生活歴や出来る事を 把握して、介護計画に取り入れての支援があ る。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日々の散歩や買物、馴染みの理美容院の利 用、文化祭等の地域行事への参加、美術館見学 など、利用者の希望や機会を見つけての支援が ある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。利用者の言葉や 表情、素振りから利用者の思いを汲み取って、 一緒に散歩に出かけるなどの対応がある。ま た、玄関ホールにセンサーを設置し、玄関横の 事務所には常に誰かが在室するなど、利用者 の自由な暮らしと安全面への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	消防署の立会いのもと、年2回の避難訓練を 実施し、避難経路や避難方法についての確認と 専門家の立場から助言を受けている。災害時 の地域の人々との協力体制づくりへの働きかけ は今後の課題である。		災害時等の地域住民との相互連携や協力体 制、避難場所としての受け入れ態勢などにつ いて、運営推進会議時に提案するなど、地域 住民への伝達・浸透に努められることを期待 します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	メニューは、利用者の希望を取り入れ、栄養 バランスや見た目を考慮しながら作成してい る。利用者ごとの食事の摂取量の把握と必要 な利用者に対して水分摂取量の把握、心身状態 にあわせた食事形態の提供などの支援がある。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は程よく自然光が採り入れられ、季 節感のある飾りが施されている。また、さりげ なく季節の生花が飾られるなど、居心地よい空 間造りへの工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	茶筆筒や鏡台、茶器、テレビ、筆筒などの思 い出の品や馴染みの品が持ち込まれており、利 用者のその人なりが伺える居室となっていた。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号